

第21回 NII 4月からの大学遠隔授業に関する
取組状況共有サイバーシンポジウム 11月20日

学生が自分で自由に授業参画する 分散ハイフレックス型授業の実践例

公立大学法人 都留文科大学
教養学部 学校教育学科

特任准教授 吉岡 卓

都留文科大学

- * 1953年 山梨県臨時教員養成所として設立
- * 学生約3,400名, 専任・特任教員98名, 非常勤講師305名
- * 学部卒業生の4割が全国で教職に就いている

* 東京から80分

* 地元山梨県出身者は14.7%

* 全ての都道府県出身者が在籍

* 4月22日から遠隔授業開始



新型コロナウイルス感染症等対策本部会議実施状況

学生部門

教務部門

情報部門

対策本部

* 【学生部門】

- * 衛生管理マニュアルの作成
- * 感染症予防用品（消毒液、マスク、フェイスシールドなど）の備蓄、配置
- * 発熱等体調不良学生の相談、受診支援、経過観察
- * 感染症予防の啓発、注意喚起
- * 生活困窮学生に対しての経済的支援
 - * 給付型奨学金（家計急変）の周知、申込
 - * 「学びの継続」のための学生支援緊急給付金の支給
20万円支給（非課税世帯）：120名　10万円支給：700名
 - * 大学独自の緊急援助奨学金（1人3万円）：27名に支給済み
（日本学生支援機構の「新型コロナウイルス感染症対策助成事業」により100万円の分配が見込まれているため追加募集を予定）
- * 部活、サークル活動の再開時における感染症予防対策の確認
- * 学食の感染症予防対策を講じ再開
- * 都留市及び大学後援会からのマスク配布
- * 健康診断の実施および健康診断費用の一部補助（学生健康保険組合）
- * インフルエンザ予防接種費用の一部補助（学生健康保険組合）
- * 山梨フードバンクと協定を結び困窮学生へ食材配布の支援
- * 留学生への対応
- * 都留市の商品券配布への協力

新型コロナウイルス感染症等対策本部会議実施状況

学生部門

対策本部

教務部門

情報部門

* 【教務部門】

- * 遠隔授業の調整
 - * 遠隔授業開講及び運用に関する指針や依頼文の作成、発信
 - * 授業科目の調査および履修人数の調整
 - * 教室の調整（対面授業との同時開講の際の教室開放）
 - * 学内の感染症予防対策（各施設入口に非接触型の体温感知器の設置、教室等へアクリル板の設置、換気扇等の設備、消毒薬の準備など）
 - * 授業における課題の軽減、スリム化の依頼
- * 対面授業の調整
 - * 授業科目の調査および履修人数の調整
 - * 教室の調整
 - * 疾患等を持つ学生への配慮の手続き
- * 学外活動の調整

※10月現在、対面授業と遠隔授業を併用し授業実施。感染症流行状況に配慮しつつ対面授業の拡大を進めている。

新型コロナウイルス感染症等対策本部会議実施状況

学生部門

教務部門

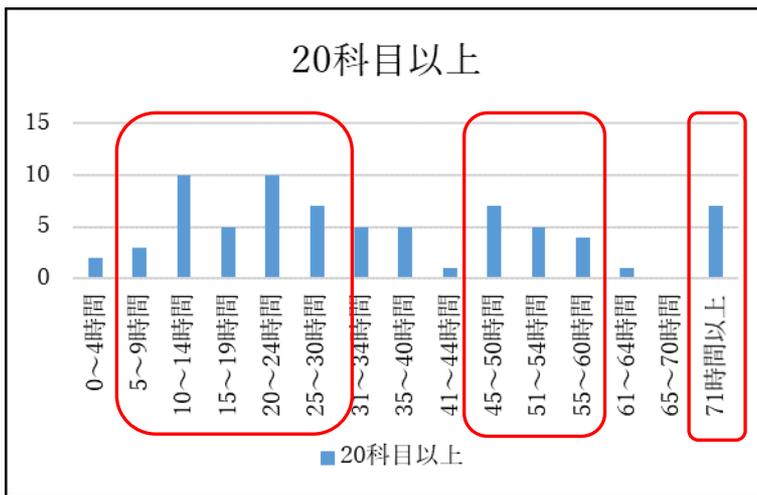
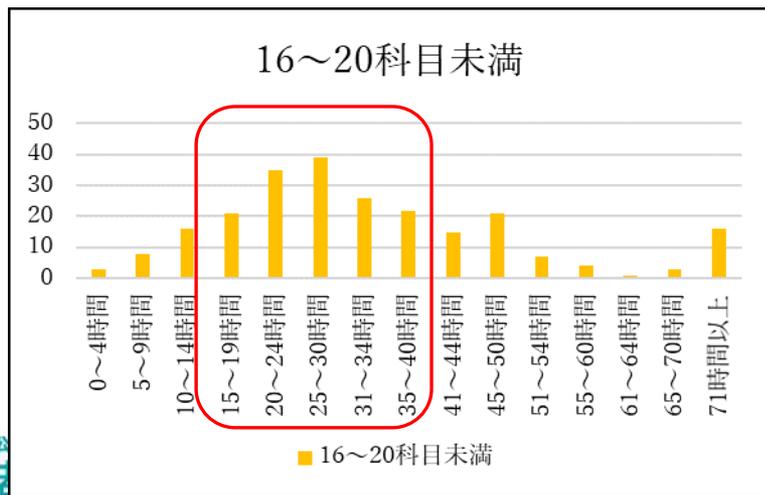
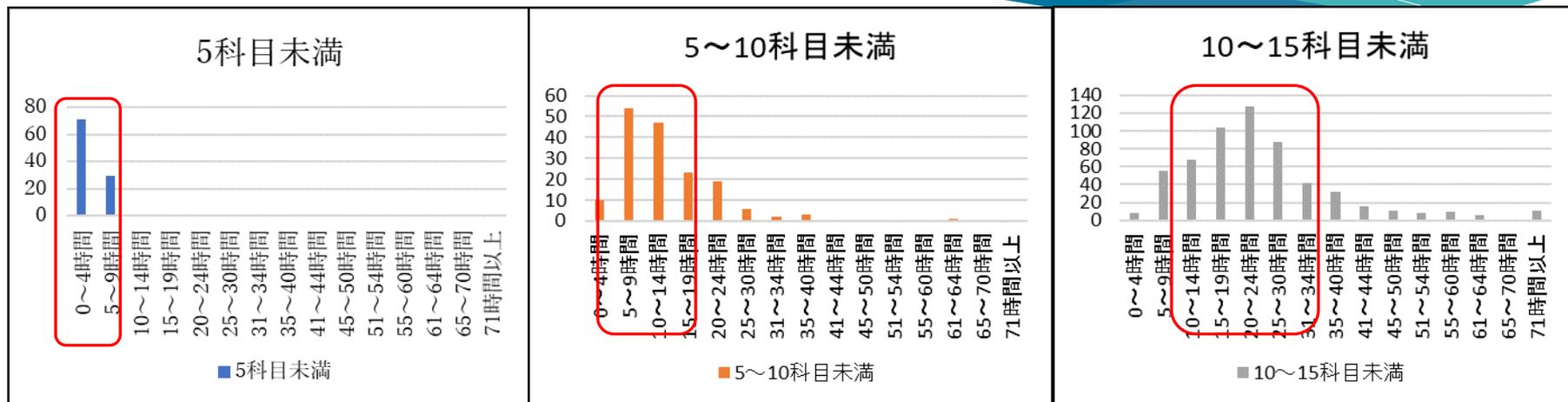
情報部門

対策本部

* 【情報部門】

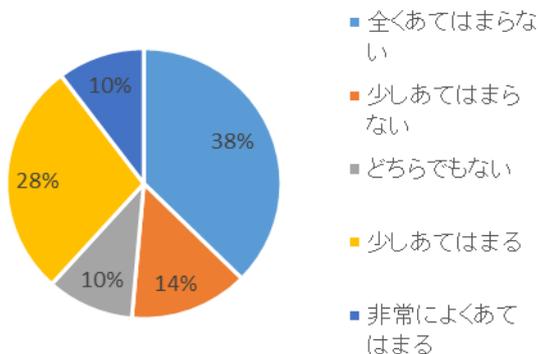
- * 学生の通信環境のアンケート調査
- * 遠隔授業を受けるためのパソコン教室等の開放
- * 学内LANの整備
- * 会議用機器の整備
- * 遠隔授業に対しての学生サポーターとして「授業支援サポーター」「新入生サポーター」制度の新設
- * コロナ特設サイトの構築と運用
- * ICT指導員（学生）の活用
- * 前期授業における実態調査の実施（学生・教員）、結果分析
 - * 8月21日～9月6日
 - * 教員アンケート 270名の回答
 - * 学生アンケート 1167名の回答
- * 教員への支援
 - * 遠隔授業に使用するソフトの利用料金の補助
 - * 遠隔授業の運用に関する参考事例の作成、学内サイトでの公開

学生の負担 (n=1167)

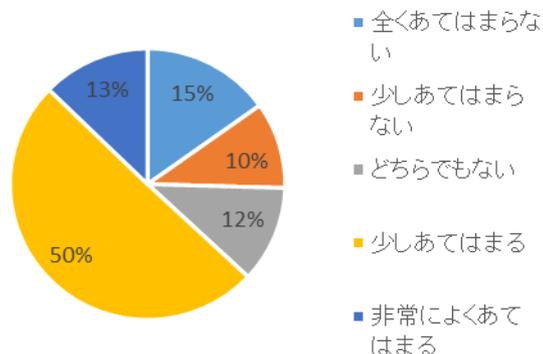


肉体的疲労と履修科目数(n=1167)

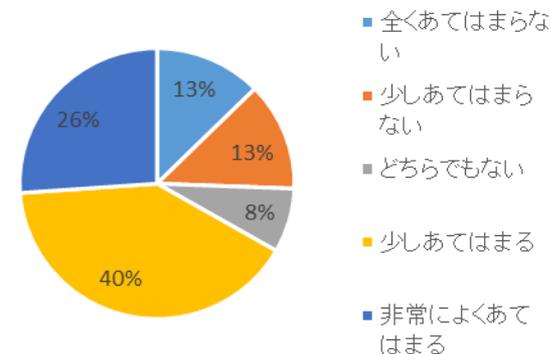
5科目未満



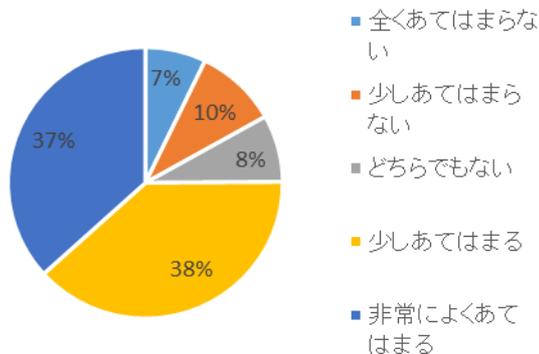
5～10科目未満



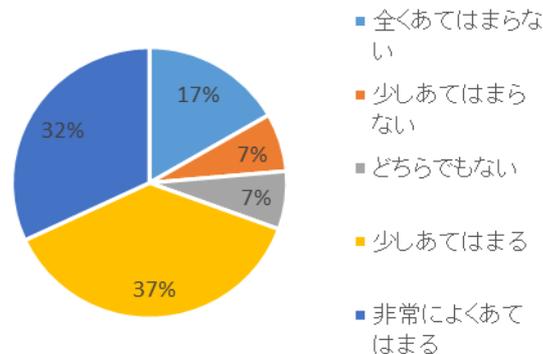
10～15科目未満



16～20科目未満

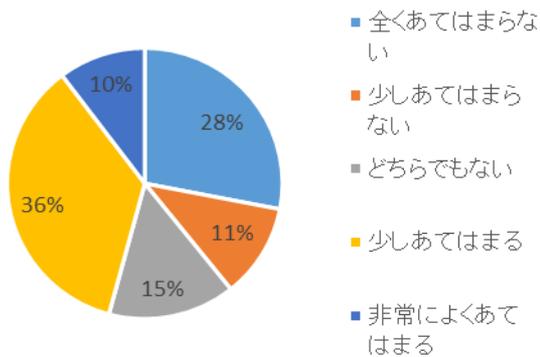


20科目以上

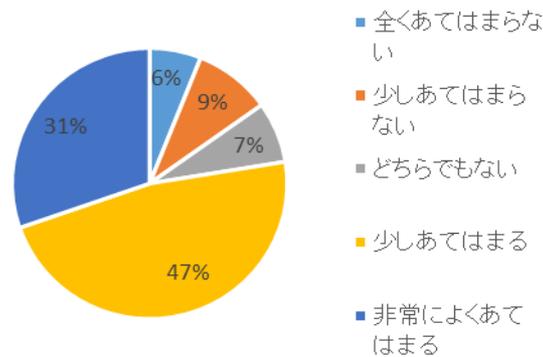


精神的疲労と履修科目数(n=1167)

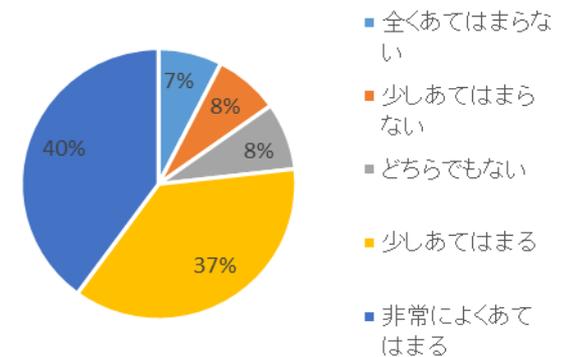
5科目未満



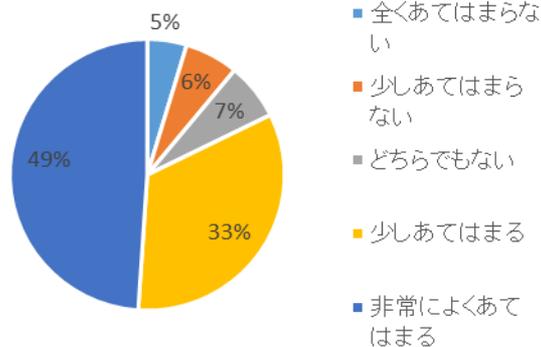
5～10科目未満



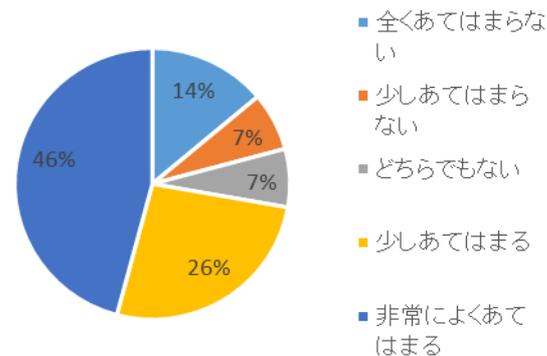
10～15科目未満



16～20科目未満



20科目以上



特色ある授業 — 前期期間中 —

- * キャリア形成論
 - * Zoom使用
 - * 6時限目開講
 - * アメリカ, ヨーロッパなど海外の第1線で活躍している方をゲストスピーカーとして招待
- * Listening & Speaking (英語)
 - * 毎回の授業内容を最初に提示する
 - * 最初の挨拶だけZoomで顔出し, その後OFF
 - * FripGridで学生に動画を取らせてお互いにコメント
 - * ALC NetAcademy NEXT

授業内で学生が考える時間がある



本学の理念

- * 分野や講義によってはすぐれたテキストがあり、遠隔でも良い。
- * 哲学や社会問題など、知識取得だけではない、授業中のディスカッションによる深まりというのは対面でなければ難しい。
 - * 教育の豊かさ
- * 課題に追われたり、授業時間中ずっと指示があるような教育は避けたい。
- * キャンパスカルチャーを含めて、**学生が自分で自由にできる時間の提供が**大学において重要

[View the printable version.](#)

Education Research Worldwide in a COVID and Post-COVID World



#AeraOecdCovid



September 23, 2020
9:30-11:00 AM EDT / 3:30-5:00 PM CEST

PARTICIPANTS

Debra Myhill
President
European Association for Research
on Learning and Instruction
(University of Exeter)

Hideori Fujita
Past President
Japanese Educational Research Association
(Tsuru University)

Joe O'Hara
President
European Educational Research Association
(Dublin City University)

Shaun R. Harper
President
American Educational Research Association
(University of Southern California)

Andreas Schleicher
Director for Education and Skills
Organisation for Economic Co-operation and Development

MODERATORS

Felice J. Levine
Executive Director
American Educational Research Association

Stéphan Vincent-Lancrin
Deputy Head of the Innovation and Measuring Progress Division and Senior Analyst
Organisation for Economic Co-operation and Development

ABOUT THE WEBINAR

This AERA-OECD webinar will examine priorities and planning for education research at a time when education and learning face uncertainty and dislocation. In this interactive discussion, research leaders from around the world will share insights on how education research is currently contributing to the response to COVID-19 for all levels of education and forms of learning.

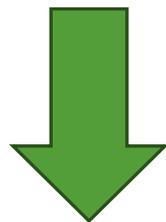
They will also discuss what is needed to further understand and monitor related challenges, and will offer evidence-based policies to help education leaders, government officials, schools, and education systems make sound decisions.

The webinar will explore how the worldwide research community can collaboratively contribute to the design of COVID and post-COVID education and to the implementation of new research processes that can help inform stakeholders during and after the crisis.

This webinar will broadcast live on ZOOM.
ASL interpretation and captioning will be provided.
Please register in advance.

後期からの取り組み

- * 学生が授業内において自由に考える時間がある.
- * 操作方法が簡単である.
- * できれば対面で授業を行いたい.
 - * コロナ対応に加え教育実習期間を考慮する必要がある.



- * 分散＋デュアルハイフレックス型授業

感染防止対策



各館入り口 消毒アルコール設置



各館入り口 サーモマネージャ設置



3号館 天井ファン設置



1号館 換気扇設置



ラウンジ 仕切り板設置



5号館 座席制限



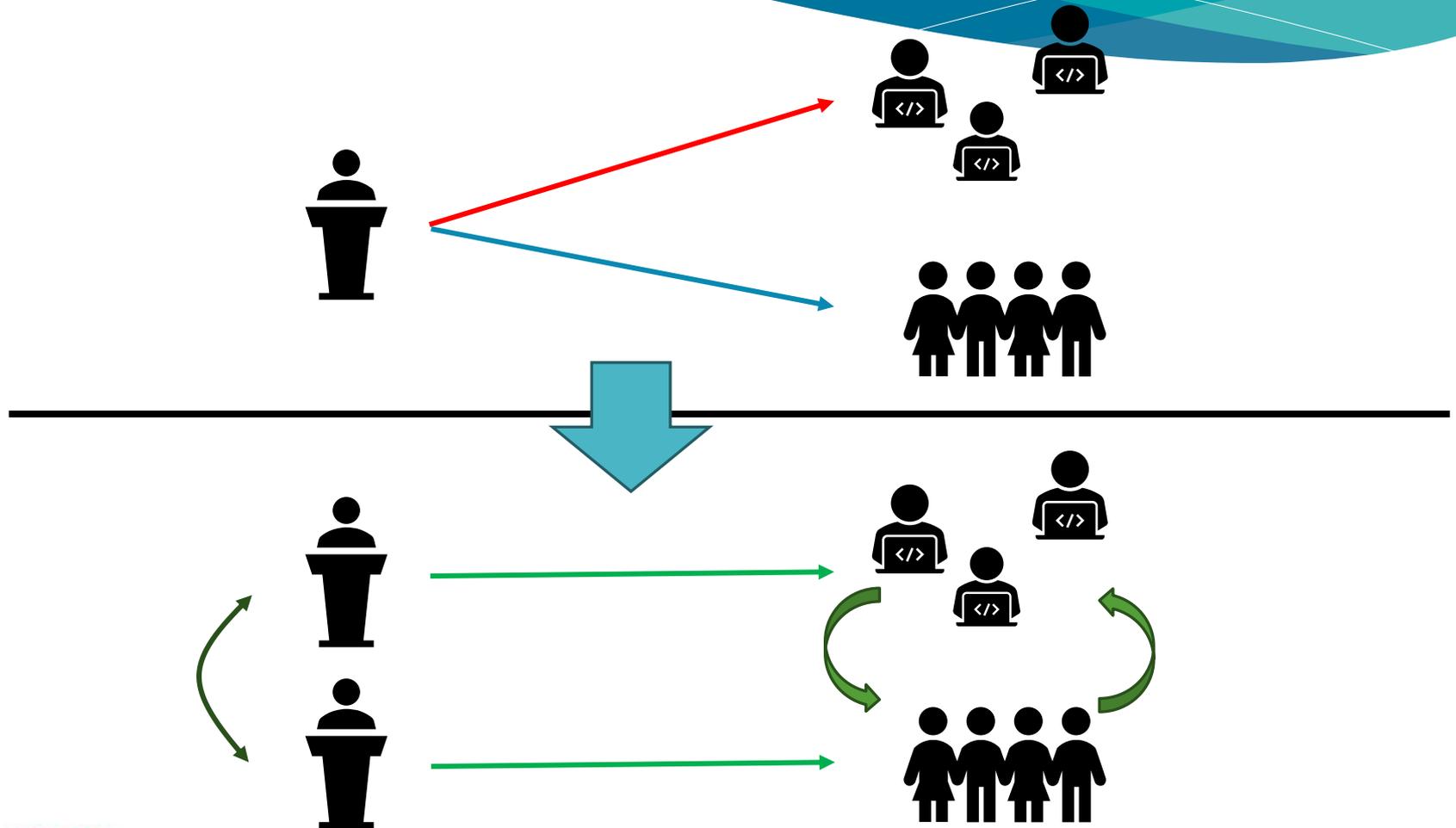
学食 仕切り板設置

ミーシンポ

デュアルハイフレックス型授業

- * 1つの授業を分散(隔週で対面と遠隔)に分ける.
- * 1単元で行う到達目標に対して, 2通りの取り組みを考える
 - * 一方は対面用
 - * 一方は遠隔用
- * 具体的な授業展開
 - * 遠隔受講者はZoomを用いて挨拶時の画面ON依頼→その後OFF
 - * 授業冒頭に今回の目標提示
 - * 遠隔(Zoom)受講生に対しPPTの画面共有で作業を指示
 - * 対面受講生に対し作業を提示
 - * 上記を交互に繰り返す
 - * 最後に対面と遠隔で同時にまとめ

デュアルハイフレックス

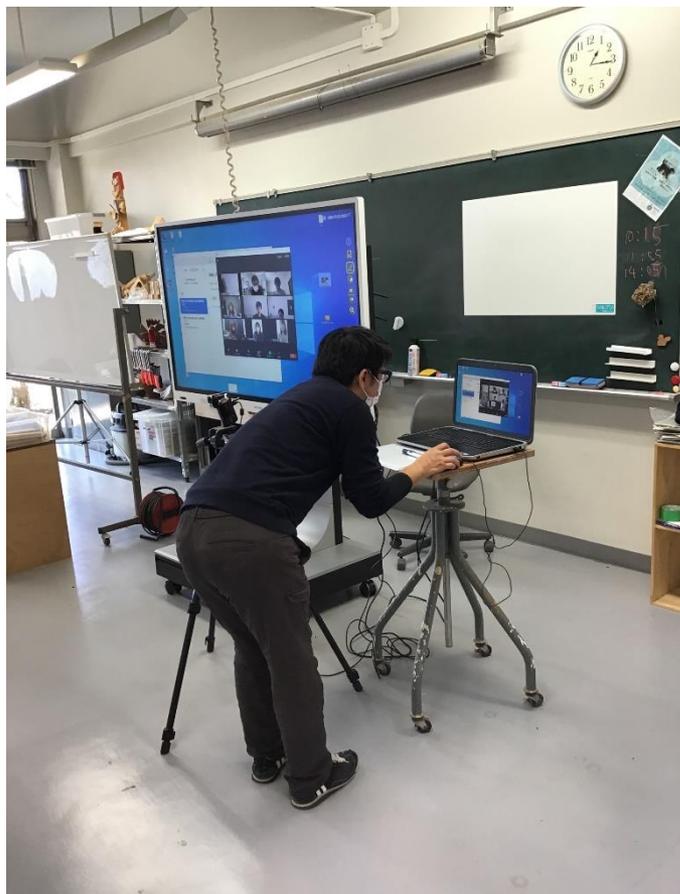


図工・美術系授業における実践例

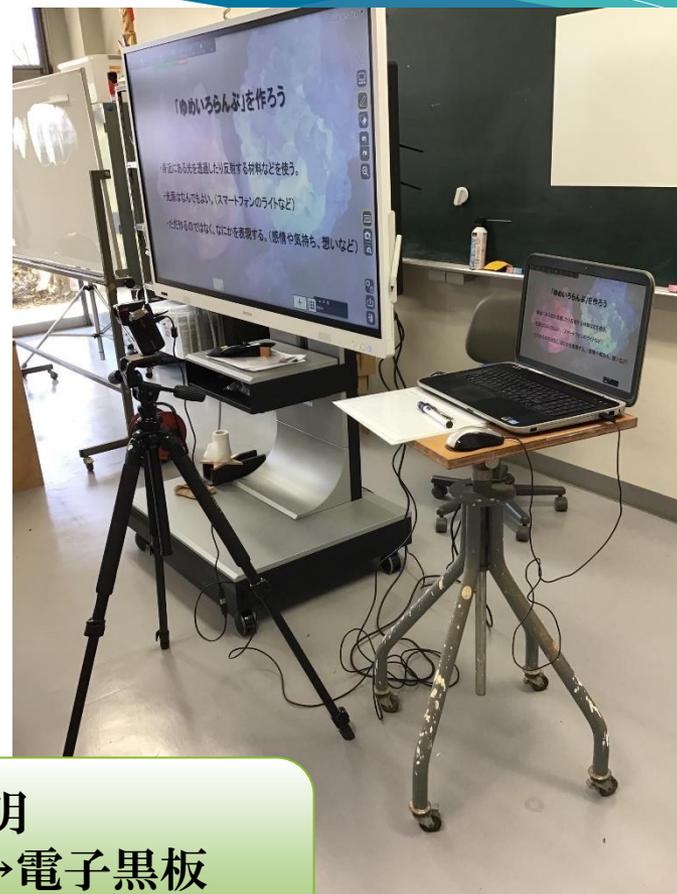


最初の挨拶はビデオONを依頼
全体に対して、本日の目標提示

図工・美術系授業における実践例



図工・美術系授業における実践例



遠隔受講生への説明

Zoom PPT共有→電子黒板
画面を対面受講生にも提示

図工・美術系授業における実践例



意外と旧式のカメラが接続も簡単

図工・美術系授業における実践例



対面受講生への説明
Zoom PPT共有→電子黒板
画面を遠隔受講生にも提示